



Interactive Training in Communication-Japan



III

Volume 42
September 2024

目次

Table of Contents

今期のテーマ	1	2023-2024 Theme
ITC-J 会長基調演説	2	ITC-J President's Keynote Speech
役員会年次報告	3	Annual Report
役員からのメッセージ	4	Messages from ITC-J Officers
委員会からのメッセージ	5	Messages from ITC-J Committees
第2回カウンスル会長会報告	6~7	Comments on 2nd Council President's Meeting
特集『ITCの歴史を紐解きます』シリーズⅢ	8~9	Unraveling the History of ITC SeriesⅢ
会則および細則修正案審議結果	10	Discussion Results of Bylaws Amendments
記念講演	11	Memorial Lecture
教育セッション	12~13	Education Sessions
年次大会特集	14~17	Annual Conference
スピーチコンテスト	18~19	Speech Contest
年次大会閉会式	20	Annual Conference Closing session
第43期役員・指名委員会	21	The 43rd Board Members & Nominating Committee
第43期年次大会案内		Invitation to the 43rd Annual Conference
クラブ記念例会・特別開催会合	22~23	Club Anniversary & Special Meeting
前夜祭ソネ&淡路島観光	24~25	SONE in Kobe & Sightseeing in Awaji
追悼文	26	Memorial Messages for the Departed
ITC-J ウェブサイト会員ログイン方法 表紙について / 編集後記		How to Log in to ITC-J Website About the Book Jacket / Message from Editor
ITC-J宣誓 声明文		ITC-J Pledge & Mission Statement of ITC-J

ITC-J 第42期 テーマ
2023 - 2024 ITC-J Theme



守る 変える そして進歩



ITC-J 第42期 会長基調演説



ITC-J 第42期会長
高山 敦子

すべてのものに生命があるように、組織にもそれがあります。生命にはそれを生む人だけでなく、育てる人が必要です。

ITC-Japanも多くの方々のお力によって育てられ、ここに第42期年次大会を迎えることができました。社会情勢の目まぐるしい変化と共に、私たちの組織にも時代に即応した組織作りの必要性が求められています。私は活力を持って存続し発展していくのにはどうすればよいかと考へ、“守る 変える そして進歩”というテーマを掲げました。良いものを継承して、余分を捨てて、上手く変化させなければなりません。

今期の取り組みは、オンラインのZoom例会、役員会、プログラム、クラブやカウンスルを超えての合同プログラム、新しいタイプの名簿作成、そして中内財団から100万円の助成をもらうことに成功したことでした。実行した方が良いと思われる変化を取り入れました。何を実行したかは大会のプログラム冊子、会報、年次報告などからお汲み取り頂きたいと思ひます。

その昔40歳くらいの自信家で生意気なお喋りな中年女性がおりました。

この組織が彼女にもたらしたものは何でしょう。視野を広げ、考へ、行動することを体験しました。学ぶことの楽しさも知りました。3カウンスル、4クラブに入って沢山のお友達ができました。どこに行ってもあの人がいると言われておりました。そうです。其れが私です。30年の間にたくさん時間、エネルギー、お金も使いました。忙しくて失敗もたくさんし恥もかきました。それでもこの会を辞めたいと思ひたことはありません。其れだけ幸せを貰ったのだと思ひます。私は自らの意志でこの会のメンバーになることを選ひ、生きた時間の使い方を考へるようになりました。

人は人によって磨かれると申します。人との出会いそのものが人生であり、教師であります。私は良い教師に巡り合えたのです。

この組織のことを今考へるとまず問題なのは世界のどこかでいさかいが起こり、自然災害に悩まされ、国の内外を問わず、経済、社会生活に不安定な近年です。

豊かな知識を得ることのできる恵まれた環境の私たちの組織も不安定な社会情勢の中、会員の減少を食い止めることはできません。今期すでに約60名の退会を確認しております。諸物価の高騰も避けられません。そこで余儀なく年会費値上げの修正案を出させていただきました。一般会計に繰越金はありますが、今備えの或る時に健全な会計に立て直したいと思ひます。

考へ方は人によって違ひます。厳しい批判をされる方もおられますが、共に考へ、共に進もうという気持ちは同じはずです。私たちは一方通行の役員会にならないように試行錯誤する毎日でした。ただどのような時でも事情というものが存在します。でも私たちは同じ目的を持った運命共同体の一員なのです。

あらゆる行動の元に温かさと思ひやりのあることが私たちのコミュニケーションの原点であります。どうぞ「胸襟を開く」という言葉があるようにまっすぐ広い心で向き合っ頂き問題に取り組んでいただきたいと願ひます。言える勇気と受け入れる心、実りある充実した議事会議になるよう努力いたします。

最後に今日のITCに続いてITC-Jを築き、育て守って伝えてこられた幾多の先人たちに感謝いたします。只今から始まります、「繋 つなぐ」をテーマに掲げたこの大会が皆様力を引き出し、心の糧となりますことを願って基調演説を終わります。

ITC-J第42期 役員会年次報告

(2023年8月1日～2024年7月31日)

ITC-J第42期役員会は、テーマ「守る 変える そして進歩」のもと以下の活動を行った。

1. クラブ数・会員数の状況

ITC-Jは今期8カウンスル56クラブ656名でスタートした。7月14日現在8カウンスル55クラブ、会員数657名、新入会員21名、退会者20名である。(重複会員30名含まず)

2. 研修会報告

- (1) カウンスル会長会は第1回2023年12月6日、第2回2024年4月10日オンラインZoomにて行った。
- (2) カウンスル運営研修会(CMT)は、2024年7月16日神戸ポートピアホテルにおいて7部門で開催される。

3. 主な活動

- (1) 役員会は任命役員を含めて出席し現在までに1回の対面含め計15回オンラインZoomにて開催した。
- (2) 役員は、8カウンスルの第1回会合に公式訪問を行い、ITC-Jの方針を伝えた。
- (3) ITC-J会報誌は、年3回発行とし、全会員に第I号、第II号を配布した。第III号は9月1日に発行を予定している。
- (4) ITC-J通信は毎月1日に発行し、現在までに12回配信した。
- (5) 会員の講師を募りクラブ・カウンスルで活用してもらうための「サポートビューロー」は、今期11回の活用があった。
- (6) 第42期年次大会全体講演は、大阪大学名誉教授 病理学者 仲野徹氏に依頼し、教育セッションは5部門で行う。
- (7) 会員増強維持のため「Welcomeキャンペーン」として会員からのキャッチフレーズを募った。
- (8) クラブ・カウンスル主催の小・中・高校生スピーチコンテストを後援している。
- (9) 会則・細則の修正案を会則・決議委員会と検討し各クラブへ提出した。
- (10) 第42期のスピーチコンテストは英語部門と日本語部門の2部門にて行う。
- (11) 次期のRosterへの掲載内容は個人の判断によるものとした。

4. ITC-J第42期年次大会は、2024年7月15日、16日の2日間の日程で、大会テーマ「繋 つながり」のもと、神戸ポートピアホテルにて開催中である。

以上

ITC-J 第42期書記 王 久美子
(2024年7月15日採択)

役員からのメッセージ

「ITC-Jは不滅である」

第一副会長(プログラム・教育委員長) 大原 慶子

年次大会の締めくくり、CMTでの一コマです。第一副会長(プログラム・教育委員長)部門では各カウンスル会長のテーマと方針、プログラムテーマや企画について十分話し合うこと、情報を共有することが大切であるという認識を共有することからスタートしました。No.1から順に企画・構想について発表し、歴史と未来を繋ぐプログラムにおいて講師の講演後、ワークショップを予定するカウンスルや、例会日が同じ曜日のクラブ同士で合同例会を試みるカウンスルもありました。また、健康法を取り上げ、カントリーダンスのワークショップを考えるカウンスル、クラブ毎にプログラムを開発し実践、PR用のITC-Jチラシを作成し、ゲストを招こうというチャレンジするカウンスル等、会員の減少と高齢化という悩ましい現実の中で、「ITC-Jは不滅である」ことを示してくれた、頼もしく、そして嬉しく思ったCMTでした。

第42期を終えて

第二副会長(会員委員長) 田中 英子

会員委員会は「Welcomeキャンペーン」を推奨し「会員の維持・増強」を目標に掲げました。多くの新入会員をお迎えできましたが、高齢化による退会など会員増強の難しさを実感する一年でもありました。皆様からお寄せいただいた52編の素敵なキャッチフレーズをこれからも活用していただけたら幸いです。晩餐会で「永年継続会員、新入会員最多クラブ、新入会員最多紹介者」の表彰式を執り行いました。継続の大切さを感じ、受賞された皆様の爽やかな笑顔が印象的でした。準備段階で各クラブ、カウンスルの会長並びに第二副会長にお世話になりありがとうございました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

第42期に経験した沢山の出会いと学びは、また私の宝物になりました。

修正案2に際して

会計 末廣 佳香

第42期会計は通常役務に加え、修正案2の原案から大会の審議に至るまでに多くの時間を費やしました。“年会費値上げ”は反対の皆さまからの厳しいご意見に幾度となく心折れそうになりましたが、J役員会の団結、会則・決議委員会との連携と結束が大きな支えとなり実を結ぶことができました。可決後の取り扱いにつきましては会則、細則の絡みで二転三転し、会員の皆さまにご不安を与えてしまった事がたいへん心苦しかったです。そしてご理解、ご協力に心より感謝申し上げます。

第42期テーマ「守る 変える そして進歩」その言葉通り、継承と変革と未来にむけて躍進の一步を踏み出せたことはITC-Jの歴史に、また私のITC-J人生にも大きく刻まれました。

委員会からのメッセージ

会則・決議委員会

委員長 沖田 道子

活発な審議時間が持たれた年次大会

- 1) 修正案2件(会則修正案1件、細則修正案1件)を受領し、役員会とクラブに送付しました。第42期年次大会で審議され、いずれも可決されました。大会の審議では、修正案2は討議時間が10分延長されて、次々と熱意のこもった多くの賛成と反対の意見が出されました。全てのITC-J会員が、いかにITC-Jのことを切実に熱心に考えているのかわかります。会員の知恵を生かして、ITC-Jを繁栄させたいものです。
- 2) 年度初めには、CMT資料をカウンスル会則・決議委員会に配布しました。年度半ばには、ITC-J役員会とカウンスル会則・決議委員長で、会則勉強会を開催しました。

事務管理委員会

委員長 田中 和美

事務管理委員会の役割について

第42期は本田光代委員と共に担当させていただきました。

前期第41期に「事務局」から「事務管理委員会」となり、役割は①会員名簿の管理と期末にRosterの作成と販売を行う ②新入会員のITC-J会員番号(ID)とパスワードを設定し、会員証を発行する ③資料・物品の販売と管理を行う とITC-J会則にあります。①事務管理委員会では全会員のデータを保管していますが、Rosterについては、ITC-J役員会での協議を踏まえ、次期のRosterへの住所、電話番号の掲載は個人の判断としました。②今期新入会員が29名あり、会員番号掲載の会員証を発行しました。③資料・物品販売は、全て郵送ですので、会員のお手元に迅速に損傷なく届くよう梱包に気をつけました。無事に届いたと連絡をいただき、安堵していました。

皆さま、特にクラブ会長、会計の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

国際交流委員会
現況と展望

委員長 C.J.Marks

私たちは、国際交流と相互理解のための機会をさらに作ることができます。日本でのコミュニケーションに関する対話型トレーニング、それがITC-Jです。私たちの歴史は力強く、未来は明るく、今こそ先に繋げる強い架け橋を築く時です。

ITC-Jの会員の中でバイリンガルクラブは2クラブで会員数は約50名です。元ITCの会員を交えてのJoint MeetingをZoomで数回行いました。去年に続きITC-Jでの年次大会で教育セッションを行いました。Hybridで海外の元ITC会員に加えToastmastersの会員も参加するワークショップを行いました。日本人対面参加者40名国際からZoomでの参加者20名と60名ほどの大きなプログラムでした。将来の国際交流の発展は期待できる状況になっています。

ITC-J 第2回 カウンسلZoom会長会

2024.4.10

《 議事録を学ぶ 》

議会法規役員 村山 紀子

第42期役員会は、2024年4月10日(水)20:00から約2時間、カウンシル会長会をZoomで開催しました。出席者は各カンスル会長、ITC-J役員と希望するカウンシル役員の総勢33名です。先ず、各カウンシルの現状を報告してもらい、次に、議事録の書き方を学びました。

各期のITC-J役員は年次大会の前に、各カウンシルを公式訪問して年次大会に必要なインフォメーションを行います。訪問の後、全カウンシルの議事録(写)と公式訪問記録書を役員会に提出します。今期役員は提出された議事録を共有して、色々な議事録の書き方があることにアッ!エッ?オ〜と目を見張りました。

それを受けて、高山敦子ITC-J会長はカウンシル会長に「自カウンシルとは違う議事録の書き方もあることを知ってもらいたい。」という意向を示され、参加者の賛同を得て勉強会をすることになりました。勉強会は歴史と伝統のあるカウンシルNo.1の議事録(写)を基本資料にしました。

検討事項、内容および感想など

- 1) 自カウンシルとの違い、良いところ、気づきなどを発表した。
- 2) 会員のニーズ、要望や懸念を理解し、学ぶ喜び、信頼や共感を大切にすることは重要であると認識した。
- 3) 議事録は会合アジェンダに沿って事実を簡潔な文言で記録することを再認識した。
- 4) この勉強会を通して、ITC-J理念であるコミュニケーションとリーダーシップのスタイルを再認識した。
- 5) 「ゲストの紹介順を知りたい。」という質問に即答できず、宿題とした。第42期役員会は教育マニュアル(2023年改訂版)を参考にして「カウンシル会合におけるゲスト紹介順表」を作成した。尚、すでにカウンシル会長に配布し、HPにもUPしたので参考にしてほしい。

宿題が終わったその夜は、星空を眺め深呼吸をし、そして深い眠りに就きました。



《 第2回カウンスル会長会に参加して 》

カウンスル No.1

会長 讃井 良子

今回のZoom会長会は議事録の勉強をしたいとの希望があり、カウンスルの第1回議事録を事前に送信しました。No.1の議事録をお手本にしたいという申し出があり、どのような会議になるのか期待と不安を感じながら参加しました。近況報告を各カウンスルから発表され、どのカウンスルも高齢化、会員減少や諸問題を抱える中、工夫しながら真剣に取り組んでいる姿に元気をもらいました。その後は議事録の勉強会です。他カウンスルの皆様からの質問や意見を伺い、No.1の先輩達が作成してきた議事録、カウンスルNo.1らしさを大切にしながら必要に応じ修正を加え、これからの議事録作成に取り組んでいきたいと思いました。

カウンスル No.5

会長 遠藤 美与子

今期のカウンスル活動が8ヶ月過ぎた4月、全カウンスルが第1回会合を終え具体的に経過報告がなされて沢山情報交換ができました。カウンスル運営の難題は何といても会員の減少、それに伴う会費の減収に全カウンスルが苦慮しています。資金難では会場設定を始め、プログラムの内容に限界が出てきます。年会費の変更を検討したり、また年2回の会合では物理的に無理が生じ、スピーチコンテスト単独開催が3カウンスルありました。当カウンスルでは少人数クラブでも継続出来るようにカウンスルのスリム化に懸命です。ITC-Jピラミッドを支える各クラブの支援の方法はカウンスルをもっとシンプルにするか、なくすしかないと思いました。当カウンスルでは議事録は問題なく作成されていると思います。

カウンスル No.8

会長 烏谷 まゆみ

第2回会長会は会長以外の現カウンスル役員、次期カウンスル役員にも門戸を開いていただき、他カウンスルの様子を知ることができました。今後は、J年次大会後のCMT以外にも会長会だけではなく、それぞれの役員会をJ役員主催で開いていただければ有難いと思いました。今回は、カウンスルNo.1の第1回会合議事録をモデルに村山紀子議会法規役員から説明していただき、それぞれのカウンスルで少しずつ違うことも知りました。特に議事録草稿の承認時期が異なることが大きな驚きでしたが、より良い議事録作りを目指そうと決意しました。



特集 ITCの歴史を紐解きます SeriesⅢ 高山 敦子

今回の会報誌第3号の特集で2017年シアトルで行われた最後のITC世界大会の報告をいたします。誇り高き過去から品格ある未来への道の歴史的な場面のご紹介です。この世界大会にコスモポリタンスピーチコンテスト委員長として参加されたイースト神戸と城北クラブの会員の亡き杉谷和代さんの寄稿文で第36期西村みつ子会長期の会報誌第1号から“最後の世界大会と今後”という記事をお届けします。彼女の思いをお汲み取りください。

ありがとう！世界大会



第36期会報1号 19Pより

ITC 世界大会 2017 in シアトルに参加して

《最後の世界大会と今後》

杉谷 和代 コスモポリタン S.C.委員長 (2015-17)

一年前に世界大会準備委員会が開催された時にたまたまシアトルに滞在していた私は、同時に翌日のリージョン大会にも参加した。その後一年もたたない内に国際解散決議案が提出されるとはだれが予想したのだろうか。その時参加していたクリス・エンドウ国際会長の胸の内では多少とも予測できたのだろうか。その後準備は進み、4月末に突然、解散決議案提出の発表があり、世界は揺れ動いた。しかし準備委員会は採択と否決の両方の場合を考える準備を余儀なくされた。役員候補の選挙、修正案の細かな準備など、たとえ採決の可能性をほぼ確信していてもなお、まさかの時を考える準備の仕方は一種カルチャーの違いを感じ学ぶものがあった。

リージョン単位の歓迎パーティーのタレントショーでは日本が一位に選ばれ、翌日の開会氏は厳粛に行われ、ここまではいつもの世界大会通りのシナリオだった。翌日の第一回目のビジネスでは前日に国際役員会が行った説明に基づ

いて選挙が行われ、結果は予測通り賛成が圧倒的多数で、国際解散決議案が悲しくも採決され我々の国際は消滅することになった。その後のプログラムは大幅に変更されたが、大会の報告、2つのスピーチコンテスト、ワークショップは予定通り実施された。スピーチコンテストもワークショップも日本リージョンの活躍は注目され、大きな誇りだった。ビジネスの時間はすべて今後の国際レベルのチャーターに関する提案が発表されて、リージョン別に各テーブルで議論され質疑応答が続いた。そこには悲壮感はなく今後の強いコネクションを願っている姿が見えた。提案された案についての詳細は今後各リージョン代表よりなされるとして、全体的に終始国際大会らしい穏やかな冷静な雰囲気の中、新たな国際的なつながりを願い抱きあい、再会を約束し、それぞれの胸の内にある落胆は胸に収め、笑顔で別れ、ITC 会員らしいすがすがしい余韻を感じる最終世界大会であった。



第36期会報1号 20Pより

私たちITC-Jは国際の解散を前向きにとらえて、新しい時代の日本でのコミュニケーションの組織として繋げてきました。これからの発展への道へ心一つにしてお勉強してまいります。

ITC-J 会則および細則修正案審議結果

会則・決議委員長 沖田 道子

ITC-J第42期年次大会では二つの修正案が審議されました。いずれも可決され、下記のとおり
に修正されました。修正箇所は下線の部分です。

修正案1 可決

修正箇所：ITC-J会則 第7条 7. 指名と選挙 7.2. 資格

修正方法：置き換え

- 7.2. 資格
- 7.2.1. 全ての選出役員は
- 7.2.1.a. 指名された時点において、過去最低5年間 ITC-J内の有資格クラブの正会員であること。
- 7.2.1.b. クラブ及びカウンスルレベルにおいて選出役員を務めた者であること。
- 7.2.1.c. 所属クラブから指名を受けた者であること。
- 7.2.1.d. 年次大会及び役員会に出席できること。
- 7.2.2. 会長は
- 7.2.2.a. カウンスル会長を務めた経験のあること。
- 7.2.2.b. ITC-Jの選出役員を最低1期務めた経験のあること。
- 7.2.3. 次期会長は
- 7.2.3.a. カウンスル会長を務めた経験のあること。
- 7.2.3.b. ITC-Jの選出役員、任命役員、常任委員会の委員長のいずれかを最低1期務めた経験のあること。
- 7.2.4. 第一副会長及び第二副会長は
ITC-Jの選出役員、任命役員、常任委員会の委員長のいずれかを最低1期務めた経験のあること。

修正案2 可決

修正箇所：ITC-J 細則 1. 年会費 1.1.

修正方法：削除して挿入

修正案文：「5,000円」を削除して、「7,000円」を挿入する。

年会費

- 1.1. 会員1名につき7,000円とする。2つ以上のクラブに所属する重複会員は、1名分の ITC-J 年会費を最初に入会したクラブを通じて納める。

ITC-J 第42期年次大会 記念講演

講師

仲野 徹 氏 大阪大学名誉教授

演題

「できるだけ病気をしない暮らし」～こわいもの知らずの病理学講義～



プログラムリーダー
葛谷 美紀子

ごく普通の人にもある程度は正しい病気の知識を身につけてほしい、難しいと思わず分かったと考えて医者話を聞くようにしてほしいと、ユーモアを交え講義が進みました。長寿の宿命である「がん」は個性的で未だ分からないことは多くあるが、画期的な治療法も開発されていると良い情報も。できるだけ「がん」にならないための養生訓から、私たちは豊かに生きることに精いっぱいだとして、お勧めの本として、「死すべき定め Atul Gawande 著」を挙げられました。

講演後、「どうでしたか?」とお尋ねしたら、「今日は絶好調でした!」とにっこり。ITC-J会員の聞く力をお褒め頂いた優しい言葉と、嬉しく受け止めました。



教育セッションA

プログラムリーダー 津田 由貴

日本のものづくりをきわめた快男児
～海運史に輝く男の航跡を追って～

講師 玉岡 かおる 氏



教育セッションの70分間、玉岡かおる氏のお話にぐいぐい引き込まれ、終わった後は暫し放心状態でした。

神戸は、江戸時代に工楽松右衛門という高砂の一漁師による帆の発明が海運史を変え、世界一の港になっていきます。明治になり帆による和船から蒸気船に取って代われ、歴史に埋もれていた松右衛門に玉岡氏は光を当て、私たちは日本の技術力の凄さに驚かされました。不易流行という言葉で締めくくられましたが、ものづくりの国日本は、文化も含め、易々と変わらない日本人の能力と熱意があるという玉岡氏の熱い言葉が心に響きました。

教育セッションB

プログラムリーダー 小田 和子

人間の歯の咬み合わせの
不思議さ？

講師 竹澤 保政 氏



歯学博士竹澤保政氏の講演は、「咬み合わせと顎関節の正常な位置関係」が脳の活性化や認知症の予防に繋がる事、虫歯菌と歯周病菌は別である事等々、口腔内の治療は統合的に行うことの重要性を多量のスライドを基に説明され、出席者の関心が一気に惹きつけられた。人生100年時代 高齢期の健康課題でもある体の入口にあるバランスが取れた口腔内の正常な働きが人生を決めると言っても過言ではないと痛感。質疑応答では真剣な質問が相次ぎ、終了後も講師の前に相談者が集まり、まるで診察室状態！次々の熱心な質問にも丁寧な対応を戴き大変意義あるセッションとなりました。

教育セッションC

プログラムリーダー 加藤 節子

音楽療法の視点から
音楽を知る

講師 森川 泉 氏



Cセッションは講演とワークショップの2部構成で行われました。

最初に音や音楽で人とのコミュニケーションがとれること、音楽療法は私達シニア世代にも身体・思考に良い影響があらわれることなど、音楽の働きについて映像を通じて紹介されました。

後半ではマラカス、ベルなどいろいろな楽器を鳴らしながら唄い、リズムをとり、頭もつかいとワクワクドキドキした笑い声いっぱいの賑やかな時間でした。

最後に若々しく澁刺とした森川泉講師のリードにより全員で合唱・合奏し、会場がひとつになりました。

言葉の彩り 筆の詩
誌と絵のワークショップ

講師 小松 利香子 氏



本当に忙しい教育セッションDでした。90分の時間内で、詩を作成し、筆を通した絵画の作成は、大変でした。さすが、ITC-Jの会員の皆様は、オブジェを見てテンプレートに言葉を入れるだけで、子ども心に戻り、想像力を解放することで、とても素敵な詩が出来ていました。その後、講師、小松利香子様の実演のあと、オブジェを見ながらハガキに、輪郭を一筆で描き、色鉛筆で彩色しました。手元を見ないで、感覚だけで書く小松風は、とても新しい表現方法でした。これにも皆様は、付いてきてくださいました。全員の観賞会をして、各自で作品をもって記念撮影をしました。講師、小松様には、会員の皆様との素敵な時間を過ごしたいという思いがあり、今日のワークショップは皆様にも、作品を完成し、かけがえのない時間となりました。

Workshop “Talking Taboo – Getting Comfortable with the Uncomfortable”
ワークショップ「タブーについて 一言にくいことをどう話す/考えるか」

Workshop Leader: Mr. C.J. Marks (クリスタル神戸クラブ)

It was my pleasure to be Program Leader for this very exciting session. Our presenter, C.J. Marks did a great job and set the scene for healthy discussions on the three topics chosen and used the technology to enter the discussion rooms for the online participants. I remained in the onsite room and was very impressed with the discussions taking place. You could feel the excitement and energy in the room. Did we achieve our purpose with the workshop? I believe we did.

ハイブリッド形式で会場参加38名、オンライン参加20名。9か国(NZ、オーストラリア、オーストリア、オランダ、USA、カナダ、英国、中国、日本)タブーと思われることを必要に応じてどのように話すか/考えるか、3テーマに分かれディスカッションした。①男女別(共用トイレ、女性専用車両など)②自分の周囲(隣人・友人・家族など)③その他(年齢、宗教、既婚など)グループ討議はオンラインでは3つのブレイクアウトルーム、対面では5テーブル。普通はあまり話さないことについて話し、国の違いや考え方の多様性に驚き楽しんだ。

会場の画面や切り替えなど、オンラインの良さを駆使して行われた。



Ms. Margaret Sutherland
Mr. C.J. Marks



ITC-J 第42期 年次大会特集

2024年7月15日(月)～16日(火)

大会1日目、午前9時からの派遣員説明会を終え、カウンスル会長・クラブ会長行進に引き続き、ITC-J第42期 高山敦子会長により高らかに2日間の年次大会の開会が宣言された。

開会式



会長
高山 敦子



会長行進



会長行進司会
畑山 はるみ



カウンスル No.1



カウンスル No.2



カウンスル No.3



カウンスル No.4



カウンスル No.5



カウンスル No.6



カウンスル No.7



カウンスル No.8

議事会議



派遣員説明会



審議

晚餐会



お出迎え



元ITC会長
Ms. Margaret Sutherland



晚餐会 PL
中井 恵俐子



役員就任式



第42期役員退任式



インストラリングオフィサー
松本 敬



第43期会長就任挨拶
松山 喜代子



新役員就任式



新役員とテーマ

表彰



第二副会長
田中 英子



40年継続表彰



30年継続表彰



20年継続表彰

エンターテインメント



添田 ゆみ /ピアノ



上田 浩子 /クラリネット



ITC-J アラカルト

大会2日目、高山会長のリードで「ITC-Jに対する思い」「ITC-Jに入会したきっかけ」を9名の会員の皆様にコメントして頂いた。



派遣員資格確認委員会



ページ委員会



儀典委員会



受付

スピーチコンテスト



スピーチコンテスト委員長
伊藤 容子

今期のスピーチコンテストは英語の部5名、日本語の部8名の出場者で開催されました。両会場とも大勢の聴衆が、スピーカーに熱い声援を送ってくださいました。熱心な聴衆の姿勢、感動はスピーカーに伝わり相乗効果でさらにより良いスピーチになることを実感し、スピーチはスピーカーと聴衆により創られると改めて思いました。クラブ、カウンスルのスピーチコンテスト委員長、お役を引き受けてくださった皆様に心から感謝申し上げます。コンテスト後には丁寧且つ温かく的確な「評価用紙」をスピーカーにいただき、これぞITC-Jの“学び”と思いました。

英語の部

Subject : Memory 思い出

Title : What is your treasure? 宝物は何ですか?



英語の部 優勝
黒柳 美紀子
カウンスルNo.1 千種クラブ

私の宝物は思い出です。先日古い持ち物の整理をしていたら、懐かしい写真と手紙が出てきました。

写真には20代の頃北アルプス登山を楽しんでいた自分と同僚の笑顔が写っています。元気に満ちた若き日の記憶が蘇り感激すると同時に、また登りたい、登れるかもとそんな気持ちになりました。

手紙は約30年前に受け取ったものです。娘が中学生だった頃、教師と生徒の関係は良好ではなく荒れる学校は社会問題でした。そんな時部活の先生を尊敬する娘たちの様子に心打たれた私は、それを知ってもらいたくて新聞のエッセイ欄に投稿しました。手紙はその記事を目にした部活の先生からでした。「生徒とのコミュニケーションに自信を無くしていた自分を励ましてくれたこの記事で、私は教師を続ける自信が持てた。」と感謝の気持ちが綴られていました。手紙を読み返し私は当時の感慨に浸りました。

最近読んだ本に「幸せな思い出は高齢者に新しいエネルギーを与える」とあり、私は思わず膝をうちました。年とともに未来が小さくなり、過去は

大きくなっていきます。過去の素晴らしい思い出は宝物です。過ぎし日の思い出をたどり、喜び、幸せ、活力をもらいませんか。今日のこの貴重な経験も、いずれ私に元気と勇気を与えてくれる源になると信じています。



英語の部 出場者の皆様



英語の部 PL
竹内 ひとみ

英語の部

順位	氏名・カウンスル・クラブ	Subject	Title
1位	黒柳 美紀子 (No.1 千種)	Memory	What is your treasure?
2位	立花 真琴 (No.2 神戸)	Peace	I pray for the world peace
3位	森岡 令子 (No.3 クリスタル神戸)	Dream	My life is to keep dreaming

日本語の部

論題：展開
 題目：コマーシャル考



日本語の部 優勝

江原 恭子

カウンスルNo.3 しらさぎクラブ

次女の国際結婚を契機に、以前は疑問すら抱くことのなかった日本の習慣や日常生活に「？」を感じるようになった事例の一つとして今回のスピーチをしました。今まで何回か異文化体験談をしました。今回は孫息子が日本滞在中に受けたカルチャーショックにより触発されて感じた日本の慣習への疑問が、自分なりの納得に至る過程をお話致しました。

話は外れませんが、最近活躍している某タレントがイケメンで知的で、私は好感を抱いていたのですが、結婚が決まり記者から求められた「奥さんに対して何を望みますか？」という質問に「美味しい味噌汁さえ作ってくれたら」と答えたので私は愕然とすると同時に暗い気持ちになりました。中年のおじさんのコメントならいざ知らず、若い世代が恥ずかし気もなくまだこんなことを言ってるようでは日本の男女格差解消もまだまだ多難でしょう。

おせっかいおばさんならぬお婆さんはとりあえず身近なところでほやいております。



日本語の部 出場者の皆様



日本語の部 PL
 横地 田鶴子



日本語の部

順位	氏名・カウンスル・クラブ	論題	題目
1位	江原 恭子 (No.3 しらさぎ)	展開	コマーシャル考
2位	片桐 寛子 (No.1 錦)	支離滅裂	「求ム 新語解説者」
3位	中島 寛貴 (No.6 平安)	家族	受け継ぐもの

閉会式



閉会の挨拶
高山 敦子 会長



クロージングソート
西田 富美子

謝 辞

1年間かけて一生懸命準備した年次大会もついに終わりました。
ITC-Jは素晴らしい！ ITC-J会員で良かった！ 新しい出会いがあつて嬉しい！ もっと皆様とご一緒したかった！ 今、いろんな思いが頭の中を走馬灯のように駆け巡っております。

大会準備委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。次々の変更にも気持ちよく対応してくださり、ありがとうございました。皆様のお陰で大会を成功裏に終えることができました。素晴らしい準備委員会でした。

参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。皆様の笑顔に出会えて幸せでした。

会員の皆様の心と心がさらに強く繋がったと確信しております。

この大会が皆様のこれからの活力になれば幸いです。皆様にまたお会いできるのを楽しみにしております。

大会準備委員長 後藤 英子
大会準備副委員長 藤川 ひとみ・西畠 敏子



大会準備委員会



プログラム・教育委員会

大会登録者数報告

月日	人数	会員	特別ゲスト (来賓)	一般ゲスト	合計 (会員・ゲスト)
7月15日		326	3	22	351
晩餐会		290	7	41	338
7月16日		346	7	24	377
総数		355	12	28	395

ITC-J 第43期 テーマ・役員・任命役員・指名委員会

第43期テーマ「原点 継承 前進」

役員・任命役員

会 長 松山 喜代子 (No.3 西宮・クリスタル神戸)
次期会長 小八木 利子 (No.5 南大阪)
第一副会長 黒柳 美紀子 (No.1 千種)
第二副会長 佐伯 省吾 (No.3 西宮)
書 記 竹内 ひとみ (No.7 鳥取)
会 計 代田 有祐美 (No.5 南大阪)
議会法規役員 大野 三恵子 (No.2 京都)
編 集 者 堤 其美子 (No.5 千里)
J C L O 山口 久美子 (No.8 葦崎)

指名委員会

委員長 高木 清子 (No.2 京都)
委 員 佐野 千賀子 (No.8 東京)
委 員 奥田 小夜子 (No.1 錦)
委 員 段 紅子 (No.5 大阪)
委 員 奥澤 節子 (No.3 クリスタル神戸・川西)

ITC-J 第43期 年次大会案内

大会テーマ
「充実 笑顔」

《開催日》
2025年6月30日(月)・7月1日(火)
《会 場》
ホテル阪急インターナショナル



大会準備委員長 大原 慶子 (No.1 岡崎)
大会準備副委員長 山崎 直美 (No.3 しらさぎ・クリスタル神戸)
大会準備副委員長 喜田 秀美 (No.3 淡路)

クラブ記念例会・特別開催会合

35周年を迎えて

カウンスルNo1
飛騨高山クラブ会長 清水 洋子

35周年を迎えた、飛騨高山クラブは、5月13・14日、1泊2日で長野県への記念旅行を実施いたしました。1日目は、善光寺を参拝し、夜、祝賀会を行いました。その席で、チャーターメンバー森下道代さんの、『35年間、クラブ例会皆出席』の表彰をサプライズで行いました。2日目は、日本画家 平松礼二画伯のモネの庭の散策です。広大なお庭の新緑、澄み切った青空、心地よい風に、皆、心癒されました。その後は、旧軽井沢での、お買い物、小諸のワイナリー見学、ワインの試飲、と楽しさ満杯の旅行でした。記念すべき35周年が、会員皆でお祝いでできた事は、何よりの喜びです。この時を共有できた事、この歴史を紡いでくださった諸先輩方に感謝し、これからも、ITC-J活動を継続していきたいと思えます。



京都クラブ45周年記念例会

カウンスルNo2
京都クラブ会長 大野 三恵子



5月17日京都クラブ45周年記念例会は、ゲスト96名クラブ会員13名計109名参加のもと京都ガーデンパレスにおいて開催しました。記念式典ではITC-J第42期会長高山敦子様のお祝辞に始まり、クラブ会員が舞台上並び「45周年」をテーマとしたワンワードを行いました。会員が代表してクラブの45年の歴史表と共に挨拶を述べました。午後からは通常通りのビジネスを行い、プログラムでは全員参加の5グループによるリサーチスピーチ「京都御苑にいったい何があるというのです」をパワーポイントの映像と共に発表しました。続いてブリュッセル王立音楽院を最優秀の成績で卒業後、京都大学農学部で森林科学を専攻中のヴァイオリニスト中西皖嗣氏による「森林から見える音楽の世界」の講演とバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ第2番等の演奏に心を満たしました。鶴山紀子カウンスルNo.2会長の総評の後、多くの参加者への感謝と共に閉会となりました。

六甲クラブ40周年記念例会

カウンスルNo2
六甲クラブ会長 横山 末子

第40期テーマ：発見の旅へ サブテーマ：新しい目で見よう！

認証年月日 1984年7月19日認証番号3228として発足。ITC-Jのモットーは言葉を愛し、優雅且つ流暢にそれを用いること。40年というITC-Jの無尽蔵の教育訓練の下、今期40周年記念例会を迎えました。わがクラブはアットホームな雰囲気、仲間意識も実に穏やかに過ごして参りました。ここ数年コロナ禍、高齢化に会員減少は甚だしく少人数クラブとなりましたが、会員の個性が実り、得意部門がはっきり表現され、クラブ運営に携わっております。ITC-Jの根底を支えるプロトコールは一致団結して実行。社会との接点を持つ為大型バスを利用して野外例会を企画、音大オペラ鑑賞、大学文学講座、歌舞伎鑑賞etc. 国際カラーの乏しくなった昨今、杉谷和代氏の毎年「シアトル留学生活の披露！」国際カラーを会員に毎年報告。多くの会員出席にNo.3から応援団が馳せ参じるこの光景に杉谷氏感動！「ITC-Jのコミュニケーションが見事に実施されていることに感動です！」と杉谷氏のお別れの言葉となりました。杉谷さん有難う！皆さんクラブを育て参りましょう！記念例会は有馬中の坊瑞苑においてお祝いいたしました。



千里クラブ第35年特別記念例会に思う カウンスルNo.5
千里クラブ会長 谷間 のり子

やっとコロナ禍も下火になり、35期を祝ってもいいのではないかと。長らくお世話になった千里阪急ホテルが閉鎖となることもあり、最後に皆様にご参集いただき記念特別例会を開催しました。

各レベルの皆様、元会員、ゲストの皆様が多数いらして下さりとても華やかな会場に包まれ、ITC-J高山会長のお祝辞、No.5遠藤会長の乾杯と沖縄舞踊が一層例会を引き立たせてくださいました。ビジネスは前日に済ませ、ミニコンサートで素敵な声に酔いしれました。続いて期の長い千里会員が次に長い会員を紹介するリレー式の紹介で、沢山の笑いを取ったのは想像以上で良い思い出になりました。最後にITC-J松山次期会長の暖かな総評を頂き、閉会いたしました。



米子マンデークラブ35周年記念例会 カウンスルNo.7
米子マンデークラブ会長 清水 典子



1989年3月10日に日本で50番目に認証されてから35周年を迎えました。35周年を記念して、10月16日(月)森の中の素敵な大山プリムローズガーデンにて記念例会を開催しました。会員だけの例会でしたがITC-J役員会を初めたくさんのお祝いカードを頂戴し、当日会場に飾らせて頂きました。

プログラムは「クラブバッグ」で、模擬の「シニアウエディング」を挙行了しました。毎月の例会を大切に積み重ねてきた会員の自信に満ちた笑顔が輝いていました。最高のロケーションでプログラムとコース料理を堪能し、笑顔一杯の例会になりました。先達へ敬意を表し、歴史の一年を担い次へ繋いで行く使命を改めて強く感じた記念例会となりました。



第13回高校生スピーチコンテストを終えて カウンスルNo.3
第二副会長 萩原 貴子

今期も世代間の交流を図る目的で、カウンスルNo.3のスピーチコンテストを午前中、第13回高校生スピーチコンテストを午後に、同日開催をしました。応募校は日本語5校、英語6校でした。回を追うごとに、高校生のスピーチはレベルアップしていて、甲乙つけ難い出来栄でした。審査員の先生方も採点に苦慮されたそうです。若人のみずみずしい感性とそれを見事に言葉にして、訴えかけてくるスピーチに我々会員は圧倒され聞き入りました。高校生にとっては大きなチャレンジであり、これからの人生にとって良い経験になったと思います。また会員はよい刺激をもらったことでしょう。引率の先生、保護者からも良い評価をいただきました。

ITC-Jの社会貢献活動の一環として、これからも継続されることを期待しています。



第42期年次大会前夜祭に参加して

7月14日、第42期年次大会前夜祭が、日本のジャズ発祥の地神戸三宮のジャズレストラン「ソネ」で開催され、約80名が参加しました。バス2台で北野坂に面したおしゃれなレストランに到着、1969年創業のシックで風格ある店内のステージにはピアノ、バス、ドラム、ギターがあり、ライブの開始をワクワクしながら待ちました。ドリンクとオードブルに続いてヴィシソワーズ、サラダ、コールドビーフ、デザート、コーヒーの美味しい料理と再会のおしゃべりをしていると橋本 裕カルテットの演奏が始まり、盛り上がったところでヴォーカルの三好 由美さんが赤いドレスで登場、ファーストステージは、”Time after time” 「テネシーワルツ」等6曲、セカンドステージは”All the things you are” ”Shiny Stockings”等6曲のジャズライブを堪能しました。ふと遠い青春時代の記憶が蘇りました。店員さんのおもてなしも心地よく、何より、観光委員会の神戸ならではのチョイスと行き届いたお心使いで、素敵な仲間と楽しい時間を過ごさせていただき大満足でした。

No.5 南大阪クラブ 小八木 利子



1泊2日の淡路島観光

2024.7.16~17

年次大会終了後、CMTが終わるのを待ち、淡路島観光参加者55名は無事予定時刻に神戸ポートピアホテルを出発。大型バスに乗り込み、神戸と淡路島を繋ぐ明石海峡大橋を渡り、瀬戸内の風景を眺めながら宿泊先の「うめ丸」へ。翌日は伝統的な淡路島の文化に触れるプランAと、最近続々と誕生している淡路島の新名所のひとつ「禅坊靖寧」のプランBに分かれて、それぞれ淡路島観光を楽しんだ。



プランA

いざなぎ じんぐう 淡路人形座と伊弉諾神宮コース

日本遺産 国生みの島 淡路島へ

年次大会の後は、一路、淡路島うずしお温泉「うめ丸」へ。夕食交流会では、「鯛と伊勢海老」の活け造りを始めとして鯛や淡路牛などのお料理を堪能し、みんなで会場狭しと団扇片手に阿波踊りを踊りました。翌日は淡路人形座の「人形浄瑠璃」を見ました。幕に向かって投げ入れるおひねりを体験したり、戎さまとの写真を撮ったりして福をたくさん頂きました。続いては、今は高山家の所有となっている春陽荘を見学しました。国登録有形文化財となっている春陽荘は、7年の歳月を要して旧「岩木造船」社長が建てた近代和風住宅で細部に亘ってのこだわりがあつて驚くことばかりでした。イタリア料理「リゾレッタ」の昼食の後、いよいよ国生み神話の伊弉諾神宮へと行き、拝殿で正式参拝を行い、高山会長と後藤準備委員長が玉串奉奠をしました。参加された方々は、年次大会に来て、この観光に参加して良かった。日頃から辛いことが合っても、このような楽しいことがあつたら、また頑張れるとも言っていました。参加者一同、この観光の企画運営をしてくださった皆様方のきめ細やかなお心配りに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

No.8 蕪崎クラブ 山口 久美子



伊弉諾神宮



春陽荘



淡路人形座

プランB

ぜんぼう せいねい 禅坊靖寧コース

リトリート 禅坊靖寧

年次大会終了後に開催された淡路島観光。うめ丸での淡路島自慢の格別のお料理そして化粧水のような温泉に充分満たされ、参加者の皆様と友好を深めることもできました。

「禅坊靖寧」における禅体験。坂 茂氏設計の日本杉を使用した独特な建造物。大自然の中に身を置き、静寂の中、先ずはオープンデッキでの60分のWellness、心地良い風に触れ、小鳥のさえずりを聞きながら、心と体を整え、自分自身と向き合う貴重な時間になりました。食事は、動物性食品、砂糖など一切使用しない禅坊料理をいただき、その後は書を楽しむ、お抹茶を立てる、友と語り合うなど自由に過ごし、再度30分のWellnessで瞑想などを行いました。参加者の皆様は、淡路島ならではのお食事、温泉、禅坊靖寧での禅体験に大満足、そして担当して下さった会員の方々のお心遣いに感謝しておられました。

非日常な場所や空間で自分を癒したり、見つめなおしたりするリトリートを体感した淡路島観光でした。

No.3 西宮・クリスタル神戸クラブ 松山 喜代子



訃 報

ITC-Jにおいて長年ご活躍くださいました会員がご逝去されました。
謹んでお悔やみを申し上げますと共に、心からご冥福をお祈りいたします。

沢田 郁様	No.3 姫路	2023年8月10日
杉谷 和代様	No.2 イースト神戸	2024年1月24日
今西 永兒様	No.5 北大阪	2024年1月31日
中島 正子様	No.7 出雲	2024年4月15日

「ハンマーダルシマーの音色のような 沢田郁様を偲んで」 姫路クラブ第39期会長 上西 弥生

姫路クラブのチャーターメンバーとして2度のクラブ会長、カウンスル会長、ITC日本リージョンの第一副会長、第二副会長、そして数々の委員長としてご活躍なさいました。ITC-Jの生き字引のような沢田さんは会員からの信望が厚く、私達を支えてくださいました。筆まめな方で、優しく素敵なお手紙を頂きました。ITC-Jの活動をこよなく愛され復帰を目標に闘病されていました。

2023年8月10日、ご逝去の報に接し私達は驚きと悲しみに包まれました。沢田さんの想いを引き継いで、姫路クラブ会員は心一つにして今後の活動を続けてまいります。

「杉谷和代様を偲んで」 イースト神戸クラブ第47期会長 藤木 桂子

杉谷和代さんはイースト神戸クラブの太陽のような存在でした。いつも明るく笑顔に溢れ、その知識は正にWalking Encyclopedia! 常にGlobalな視点で考え、接し、豊かな発想と流暢な英語でクラブ全員を国際人の仲間入りに誘って下さいました。亡くなる数時間前までZoomの画面上でお元気な姿を見せて下さっていました。彼女の優しい笑顔が臉に焼き付いて今でも離れません。どうぞ安らかにお眠りください。そしてEKCをいつまでもお見守りください。

「今西永兒様」 北大阪クラブ第42期会長 本庄 扇宗

今西永兒様、ご逝去されてから早半年が過ぎてしまいました。いつも明るく、ユーモアがあり、時より鋭いご意見を述べられていらっしゃいました。

今西さんがクラブにいらっしゃらないとポツカリと火が消えたようで寂しい限りです。色々な組織に属され、特に吹奏楽でサクソを演奏されてご活躍されていらっしゃいました。そちらの世界に行かれましてもきっとお仲間達と音楽をたのしんでいらっしゃるでしょう。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

「中島正子様を偲んで」 出雲クラブ第34期会長 渡部 洋子

中島正子さんは、教員としてお勤めの後、出雲クラブに入会されました。いつもオシャレに気を配り、感性豊かで慈愛に満ちた方でした。クラブにおいては、会員の良いところを見つけ褒めて下さる、優しいお母さんの様な存在でした。また、教育「古典に学ぶ」では、方丈記、徒然草、枕草子など紐解いてくださり、人間性の深みを学ばせて頂きました。

故人のご遺徳に感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り致します。

ITC-J ウェブサイト会員ログイン方法



- ① 下記のQRコードを読み込む ② <http://www.itcjr.jp/> クリック!



ITC-J HP

会員専用ページ ログイン

ユーザーID 会員番号

パスワード 会員の姓のローマ字小文字
(例 nihon)

* ID番号がわからない場合はクラブ会計にお尋ねください。

表紙について

「若冲スタイル」というタイトルの今回の作品は、2023年京都で行われた国際芸術祭に出展されたものです。蓮の力強さと小魚の可愛らしさが印象的で、タイトルのように江戸時代の絵師 伊藤若冲の色彩に影響を受けられたそうです。繊細で色鮮やかな本当に美しい表紙になりました。今期、大会冊子も含め作品の写真を快く提供して頂きました高山秀則氏に心より感謝申し上げます。

編集後記

第42期会報誌第3号をお届けいたします。

第2回カウンスルZoom会長会、高山会長による「ITCの歴史を紐解きます」シリーズⅢ、また、今期開催されたクラブ記念例会等を掲載しております。

そして、7月に開催された年次大会に関して、盛り沢山の記事を掲載しております。大会に参加出来なかった会員の皆さまも雰囲気味わって頂けたら幸いです。

一年間、会報誌の発行にご協力頂いた皆さま、お忙しい中、原稿をお寄せいただいた会員の皆さまにスタッフ一同、心より感謝いたします。

編集者として、人との繋がりや暖かさを感じさせて頂いた、貴重な一年となりました。

編集者：喜田 秀美 スタッフ：竹内 邦子 伊山 泉

ITC-J 宣誓

我々、インタラクティブ トレーニング イン コミュニケーション ジャパンのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

ITC-J Pledge

We, as members of Interactive Training in Communication-Japan, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

ITC- J 声明文

ITC-Jの使命は、ITC-Jの目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある。

Mission Statement of ITC-J

The mission of ITC- J is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of Interactive Training in Communication-Japan and benefit the society by providing mature individuals.